

域外人材考案による住民と協働した地域づくりモデルの構築

-域外人材の継続的創出に向けたコーディネート機能の確立とプログラムの安定設計を目指して-

政策・メディア研究科 修士1年 伊藤 薫

①目的

域外人材と住民の協働による地域づくり活動において、域外人材の人口・継続を増加を目標に、域外人材自身が地域づくりプログラムを考案するために必要な機能とその効果を明らかにする。

②背景

- ・人口減少、少子高齢化が進む地域での地域づくりの担い手不足と域外人材への期待。
- ・総務省「関係人口創出・拡大事業」の実施。
- ・域外人材の地域づくり活動における継続的参加への課題。

③先行研究

・よそ者効果(敷田,2009)
地域づくりにおける「よそ者」の役割ともたらず効果について研究。①地域の再発見効果、②誇りの涵養効果、③知識移転効果、④地域の変容を促進する効果、⑤地域とのしがらみのない立場からの解決案の提案、の5つの効果を持つとした。

・他出子との協働(小林,筒井,2018)
地域活動へ参加する他出子の属性とその実態についての研究。関与の形として①レクリエーション型、②マルチ活動型、③義務型に分けられるとし、また性別や年齢による特徴を明らかにした。

④調査対象地

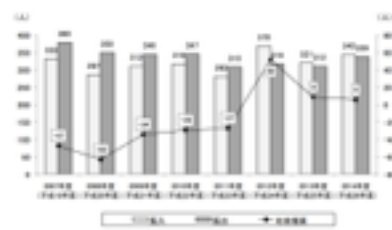
■島根県邑智郡邑南町羽須美地区

- ・人口：約1420人（1947年より78%減）
- ・高齢化率：56%（全国平均28%）
- ・地区内の1/3が空き家
- ・2018年に主要交通であるJR三江線が廃線
- ・「関係人口創出・拡大事業」を3年連続実施

邑南町の位置



社会動態の推移



⑤RQ

■なぜ邑南町では地域づくりに参加する域外人材の継続的創出が起きているか

- 1) プログラムによって継続要因に違い、共通する点はあるか
- 2) どのようなプロセスを経て継続参加に至るか
- 3) 域外人材との協働において中間支援組織（各年の事業主体）は地域住民、域外人材に向けて、どのような働きをしたか。

⑥仮説

- 1) 継続度の高い（地域側の視点を持つ）域外人材が地域づくりプログラムを考案することで域外人材への効果的アプローチが可能になる
- 2) 地域づくり活動に参加するなかで、地域愛着が形成され、参加理由が個人的動機から、地域への貢献意欲へ変容する。

⑦スケジュール

2020,8	これまでの事業整理・資料分析
9	行政関係者・地域住民へのヒアリング
10	域外人材へのアンケート
11	(継続度合いや要因について調査)
12	コーディネート機能、プログラム設計モデルの構築
2021.1	プログラム考案者の選出
2	実施プログラムの考案・調整
3	
4	域外人材考案のプログラムの実施
5	関係者アンケート
6	効果測定、モデルの再検討
7	
8	域外人材考案のプログラムの実施
9	関係者アンケート
10	
11	
12	得られたデータの体系的な整理
2022.1	修士論文の執筆作業
2	
3	